

いもち病防除及び低温時水管理の徹底について

宮城県米づくり推進本部
令和元年7月17日

向こう1週間、曇りの日が多い予報となっており、日照不足等が続くと見込まれています。
いもち病の早期発見・早期防除や適切な水管理に努めましょう。

- 「日照不足と低温に関する宮城県気象情報 第1号」が7月8日に仙台管区气象台から発表されました。「宮城県では、6月28日頃から日照時間の少ない状態が続いています。この状態は、今後2週間程度は続くでしょう。また、今後2週間程度は平年に比べ気温の低い状態が続く見込みです。」
- 本県の水稲（北部平坦地帯の中生品種）は、7月8～10日頃に幼穂形成始期に達しており、間もなく低温に最も弱い減数分裂期に達します。北部平坦地帯の中生品種の出穂期は8月4日頃になる見込みです（今後の気温が平年並みで推移した場合）。
- ほ場により生育が異なるので、幼穂長による生育ステージの確認を必ず行ないましょう。
※減数分裂期 [幼穂長3～12cm]: 出穂15～10日前
- ほ場をよく観察し、葉いもちの発生が確認された場合は直ちに茎葉散布剤で防除しましょう。

1 天気予報について

気象庁ホームページから、最新の週間天気予報、2週間気温予報等を確認してください。

※右表は、7月17日5時現在の週間天気予報（仙台）

7月17日5時 宮城県の週間天気予報

日付	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日
東部	曇	曇のち一時雨	曇一時雨	曇一時雨	曇	曇	曇時々晴
降水確率(%)	0	10/10/20/50	60	60	40	40	30
信頼度	/	/	B	B	C	C	C
最高(°C)	25	24	(24~28)	(25~30)	(25~29)	(25~30)	(25~32)
最低(°C)	/	21	(19~23)	(20~23)	(20~23)	(20~24)	(19~23)
西部	曇	曇のち一時雨	曇一時雨	曇一時雨	曇	曇	曇時々晴
降水確率(%)	0	10/10/20/50	60	60	40	40	30
信頼度	/	/	B	B	C	C	C
最高(°C)	24	25	(23~27)	(24~30)	(24~29)	(24~27)	(23~31)
最低(°C)	/	19	(18~22)	(19~22)	(18~22)	(18~23)	(18~22)
白石							
最高(°C)			(23~27)	(24~30)	(24~29)	(24~27)	(23~31)
最低(°C)			(18~22)	(19~22)	(18~22)	(18~23)	(18~22)

2 出穂予測

出穂期予測<北部平坦部> 8月4日頃（平年8月3日）

地帯区分	田植時期		幼穂形成始期			減数分裂期			出穂期	
	始期	終期	始期	終期	始期	終期	始期	終期	始期	終期
北部平坦	5/2	5/19	7/2	7/12	7/12	7/22	8/2	8/8		
南部平坦	5/3	5/19	7/2	7/12	7/12	7/22	8/2	8/7		
仙台湾岸	5/3	5/23	7/2	7/15	7/12	7/25	8/2	8/10		
西部丘陵	5/7	5/26	7/5	7/17	7/15	7/27	8/5	8/13		
山間高冷	5/7	5/27	7/16	7/24	7/26	8/3	8/14	8/22		
三陸沿岸	5/7	5/25	7/11	7/18	7/21	7/28	8/9	8/15		

- ※1) 出穂期の平年値は過去10か年（平成21～30年）のうち、最も早い年と遅い年を除いた8か年平均
2) 7月15日までアメダスデータ実測値使用、7月16日以降はアメダス平年値を使用
3) 対象品種「ひとめぼれ」「ササニシキ」「やまのしずく（山間高冷）」
4) 各生育ステージの幅は、各地帯区分別の田植始期～田植終期で予測

3 いもち病防除の徹底について

- 穂いもち予防のため、出穂期の予測に応じて適期に水面施用剤による防除を行う。
- 追肥後は、一時的にいもち病に対する抵抗力が弱まるので、葉いもち予防に箱施用剤や水面施用剤を処理したほ場でも、薬剤の効果が低下する7月中旬以降の葉いもちの発生に注意する。上位葉での葉いもちは穂いもちの直接的な伝染源となるので、発生が確認された場合はただちに茎葉散布剤による防除を行う。

4 低温時の適切な水管理（深水管理）について

- 幼穂形成始期から減数分裂期にかけて平均気温 20℃以下または最低気温 17℃以下が続く場合は、障害不稔が発生するリスクが高まることから、幼穂を保護するための深水管理（幼穂形成始期：水深10cm前後、減数分裂期：水深17～20cm以上）に努める。